

発想を広げ自分なりの表現を追求しようとする児童の育成

—発想や構想の広がりをもつ「図工の種集め」を通して—

特別研修員 図画工作 佐藤 潤子（小学校教諭）



児童の実態

- 自分の思いに近付けるために表現方法を選択できない
- 表したい思いがなかなか持てない

手立て【図工の種集めの活動】

自分の思いをふくらませ、発想や構想を深める基となるものをつかませることを目的に、活動1～活動3の三つの活動で構成する。

実践1 「未来に残すわたしの土器」

テラコッタ粘土で土器を作る題材。土器作りの前に前に油粘土にいろいろな材料で模様の付け方を試す活動を行った。

実践2 「光のハーモニー」

校庭に色を付けたペットボトルを並べる造形遊び。最初に光の効果を試す活動を行った。

ペットボトルのキャップや縄などの材料でどのような模様が表せるか油粘土に試した。



- 材料の特性への気付き
- 様々な模様にチャレンジ

活動1
自由
に材料や
用具に
触れて
試す活
動

ペットボトルとセロハン、カラーペンを組み合わせ光を当てて模様作りを試した。



- 材料と光の効果との関係への気付き
- 次々に表現方法にチャレンジ

試した中で見つけた表現方法を全体で共有し、模様作りの共通点を確認した。

共通点から導き出した模様作りの視点
「何をどのように使うか考える」
「模様の組み合わせ・繰り返しを考える」

新たな視点の確認

活動2
試した
中で見
つけた
表現方
法を
共有す
る活
動

友達の作品を鑑賞して様々な表現方法を見つけたことで多様な表現ができることに気付いた。



- 自由に歩き回って作品を鑑賞
- 全体で多様な作品を紹介

たくさんの
作品に触れる

確認した視点を基に目的を持って模様作りに取り組んだ。



- 意図を持った取組
- まとめやバランスのある模様に発案

活動3
共有し
たこと
を基に
目的を
持って
取り組
む活
動

共有したことを基にさらに試してみたい材料や表現方法を選んで光を映し出す活動に取り組んだ。



- 友達の表現を参考に改めて挑戦
- 繰り返し取り組んで課題を解決



テラコッタ粘土で作る時に、試した模様の付け方を生かしていた。

完成作品



場を生かした活動でも光の効果を有効に使って活動した。

成果

- 活動1で自由に材料に触れる時間を設定することは、材料の特徴や表現方法を見付けることに有効である。
- 活動2の内容によって、活動3で何を意識して活動するかが変わってくる。
 - ・活動2で視点を明確にすると、活動3では表現に深まりが出る。
 - ・活動2で多様な作品に触れると、活動3では表現に広がりが出る。

課題

「実践1」のように「視点を明確にすること」と、「実践2」のように「たくさんの作品に触れて広げること」のどちらを意図して活動2を展開するとよいか適切に使い分けられるように、どのような題材がそれぞれに適しているかを明確にしていける必要がある。